

「俺は困っている人を助ける、

人の役に立ち優しくする、

それだけを目標に生きてきました」

そう遺書にのこして、私たちの息子「真矢(まきや)」は、自らの命を絶ちました。



2010年6月7日、当時、真矢は中学3年生。それはあまりにも突然のことでした。

「なぜ死ななければならなかったのか」「残された者に何を訴えたかったのか」

私たちの終わり無い問い掛けは、こうして始まりました。

その後、3か月という時間を掛け、事件の詳細が書かれた『調査報告書』が私たちに手渡されました。

そこには、理想と現実の狭間で揺れ動く真矢の苦悩、怒りがしたためられていました。その調査報告書を何度も読み返すうち、遺された私たちは、まるで真矢に背中を押されるように動き始めました。

こうして、お会いした多くのご遺族や、様々な方々のお話を聞かせていただく機会を持つようになると、多くの子どもたちが同じような苦しみを抱え、その中で絶望し、そして自ら命を絶つしかない

状況に追い込まれている現実を知りました。

この国では、毎年600人もの未成年者が自殺で命を絶っているそうです。一日に約2人の計算です。

これだけ物質的に恵まれた豊かな国で、なぜこれほどの数の若者が死ななければならぬのでしょうか。

子どもたちを追い詰めているものは、一体何なのでしょう。

動き始めた私たちに突きつけられた、大きな課題であり疑問でした。

いじめ問題に、正面から向き合えば向き合うほど、私たちはいじめを子どもたちだけの問題だとは、どうしても考えることができなくなりました。

何人の子どもが命を絶とうが、自分たちに関係の無いことには無関心。死へ追い詰められた子どもに対しても「親より先に命を絶つなんて最低の親不孝だ」と言い放ち、人を「勝ち組」と「負け組」の2種類の枠に押し込み、弱者を切り捨て排除する冷たい社会。

私たちが生きていくこの社会そのものが、支えあい、認め合い、助け合うことの大切さを失いつつあります。人としての優しさと温かさを忘れつつあります。そして、このような社会の中で、子どもたちは毎日戦い続けています。

私たちは、子どもたちに見本となるような姿を見せてあげられているのでしょうか。尊敬してく

れるような大人になれているのでしょうか。

私たちより先に天国に旅立っていった多くの子どもたちが、こんな世界に絶望し、追い詰められて泣きながら死んでいきます。

いじめ問題を突き詰めて考えれば考えるほど、変わらなければならぬのは、実は私たち大人なのではないかと、私たちは思っています。

子どもたちが、自分らしくありのままの姿で、お互いを認めあえる優しい社会。

そんな社会を作り出すことが、私たち大人の責任であり、使命ではないでしょうか。

私たち大人が変わることで、何にも替え難い子どもたちの大切な命を、守れるようになるのだと信じています。



●講演を聞いた子どもたちの感想文

今日の講演で、自分がいかに暴力的で、ひどい人間かを知りました。もっと優しくしないと、こういう犠牲者が出る事を改めて知りました。

僕は強くならなないとバカにされると勘違いしていました。でも、もっと大切なことを知りました。弱くてもいい、優しくならないといけない。

すごく悲しかったけど、いけないこと、色々なことがわかりました。これからは真矢君の分まで生き抜いていこうと誓います。

(中1男子)

話を聞いていて意味がわかりませんでした。いや、理解をしたくありませんでした。

もう頭の中がこんがらがって混乱してしまって、ほとんど最期まで無心で聞いていました。

後になって振り返って色々なものが沸いてきました。怒り、悲しみ、恐怖。

講演が終わって笑みをこぼす者がいました。隣の奴に話しかけます。

「暑かったね～」・・・ハア？ 「なんで冷房がないんだよ」・・・ハア？

今こいつらは、あれだけの話を聞いて、どうでもいいと切り捨てたのか？いや、そもそも聞いていなかったのか？涙を流して伝えたかった事を聞き流して無かった事にしたのか？

(高2男子)

今日の講演で、やった側は軽い気持ちでも、やられた側はどんなに月日が経っても忘れない事。暴力は暴力しか生まないという事。傷つけてよい心、傷つけられてよい心など無い事。いじめられる側には責任がない、全ていじめる側がいけないという事。他にもたくさん事を聞きました。

今までの私なら「そんなこと分かってるよ」とあまり気にせずに聞いていたかもしれません。しかし今日は違いました。ただ人権についての講演会とは違い、とても身近に感じ、他人事とは思えませんでした。それはきっと、本人の言葉やその家族の言葉だったから、私の心にそのまま訴えられる気持ちがあったからでしょう。

(高3女子)

いじめについて今まで学校などで色々な話をきいてきましたが、こんなにいじめについて自分自身が深く考えさせられた話は今回が初めてでした。話をきいている間に涙が溢れ出てきて止まりませんでした。

改めて、一つの命、尊い命の大切さを実感しました。楽しく話せる友達がいて、家族がいて、毎日を過ごしている自分にとってのあたり前の環境に感謝しました。

(高1女子)

真矢さん、あなたに贈りたい言葉はひとつだけです。

「心からありがとう」

できることなら、生きているあなたと話したかったです。あなたのような真っ直ぐな人に、あの時、会いたかったです。

優しくすぎたあなたへ、もう一度だけ言わせてください。「ありがとう」

あなたのように清らかな人間もいるのだと教えてくれて。(高1女子)

私は「いじめ」で不安を抱えながらこの世去った仲間の方まで必死に生きていきます。

真矢君のお母さん、私たち高校生に命の大切さを教えてくれてありがとうございます。

あなたの活動、心から応援しています。

(高3男子)

■出演番組	NHK	『あさイチ』(2012.7.26、2012.11.21)
		『青春リアル ～いじめを止めたい～』(2013.2.28)
		『いじめをノックアウト ～いじりが暴走するとき～』(2013.5.17)
		『僕はなぜ止められなかったのか ～いじめ自殺・元同級生の告白～』(2013.8.25)
	日本テレビ	『スッキリ』(2011.3.9)
TBS	『Nスタ』(2012.7.20、2012.10.31)	
フジテレビ	『とくダネ!』(2012.7.16)	
テレビ東京	『NEWS アンサー』(2012.9.13)	

■講演実績	校長会研修	中学生向け講演 小学生向け講演 いじめ問題シンポジウム	■連絡先	篠原 宏 明
	教員研修			(1964年 徳島県生まれ)
	一般保護者向け講演			e-mail shino_h@npo-ghp.or.jp
	高校生向け講演			篠原 真 紀
				(1966年 神奈川県生まれ)
				e-mail shino_m@npo-ghp.or.jp